



さわやか



教育する・育てる！

私は、子どもが全力を出し切ったところに学びや成長が生まれると考えています。逆に言うと、中途半端な活動や目標がない活動は、体験にすぎず、学びや経験としての高まりに、多くは期待できないと思っています。

教育すること、育てることにある程度の負荷が必要だ、ということです。そのことに関するエピソードを紹介します。

むごい教育！

今川義元が松平広忠の子、竹千代（後の徳川家康）を人質として迎えたとき、家臣にこう言ったそうです。

『竹千代にはむごい教育をしろ』

その後、「どんな教育をしているか」と、今川義元に聞かれた家臣は、このように答えたそうです。

「竹千代に粗末な食事を与え、休みなして武術と学問を教え込む生活をさせています」

すると今川義元は、家臣を叱ってこう言ったということです。

『人質の竹千代には朝から晩まで、海の幸や山の幸あふれる贅沢なご馳走を好きなだけ与えてやれ。

寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやれ。夏は暑くないように、冬は寒くないようにしてやれ。学問が嫌だと言うならやらせるな。何事も、好き勝手させたらよい。』

「ん？」、と思いましたが、その意味を考えてみると、「うーん」、一理あるなと思いました。さらに次の言葉が続いたということです。

『そのようにすれば、たいていの人間はだめになる。』

上記のエピソードから、教育において何が大切なのか考えてみました。

- ・ たいへんなこと、辛い経験をさせること
 - ・ 自分の思い通りにならない経験を積むこと
 - ・ 辛抱させること、我慢させること
 - ・ 学問は、好き嫌い関係なく取り組まなければならないこと
- これらは、ある程度の負荷にあたります。子ども達は、これらを『厳しさ』と捉えています。ここに、教育者としての工夫・配慮を行い、子ども自らが意欲的に取り組めるようにしていきたいものです。

「あ・は・も大賞」で子どもを伸ばす、学校を高める！

「あ・は・も」の力を育成すれば、自立して生活できる子どもが育つと考えて、本校の重点目標に掲げています。また、この目標に向かって組織的に取り組むことで、学校力も高まっていくと考えています。

また、子どもを育てるコツは、「ほめる・信頼する・任せる」事だと考えています。その具体策が、「あ・は・も」大賞の表彰でした。

この表彰について、保護者・地域の方からも嬉しい言葉をいただきました。今後も、意図的計画的な表彰の場を設けていきたいと思っています。



“力いっぱい”表現する子ども



何事にもしっかりと取り組む子ども達



自分を誇れる子。地域に誇れる塩川小。